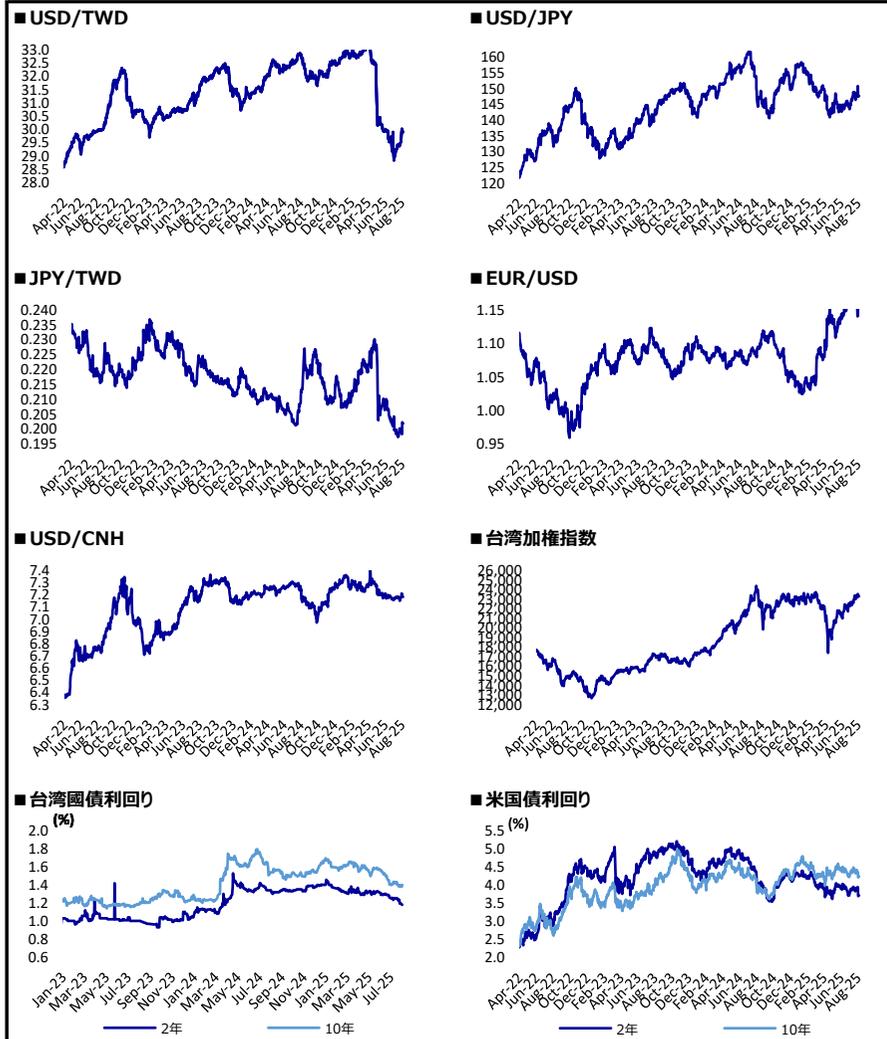


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のUSD/TWDは上昇。7/28、29.452でオープンした後、EUや日本の貿易合意の報道があったが、台湾の対米相互関税交渉の見通しは依然として不透明であるため、値動きは限定的。7/29、29.570でオープン、海外市場におけるドル高を受け、アジア通貨は弱含みで推移。加えて、外資による海外送金でドル高の展開、29.706でクローズ。7/30、29.680でオープン、台湾関税交渉およびFOMC会議を手控え、29.70台で横ばい推移。7/31、29.770でオープン、海外市場におけるドル高や、外資による配当金送金など、ドル買い材料が集中する中、一時29.954まで上昇。8/1、29.950でオープン。台米貿易交渉の結果が予想よりも不利な結果となったことを受け、ドル買い優勢の展開、一時30.044まで上昇。最終的には前週比1.9%ドル高台湾ドル安の30.025でクローズ。週間の外国人投資家の株式買い越し額は46.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のUSD/JPYは下落。7/28、147.82でオープンした後、参議院選挙後日本の政情は不透明で円は小幅下落、USD/JPYは148円台半ばまで上昇。7/29、日米貿易交渉を見ながら、148円台の狭いレンジで横ばい推移。7/30、148.46でオープン、FOMCの結果が発表され、予想通り政策金利を4.25%-4.50%に据え置く事を発表。特段サプライズはなかったものの、米金利は反落し、ドル円も148.50付近まで下落。しかしその後実施されたパウエル議長の会見がややタカ派的と解釈され、ドルは再び149円台半ばまで反発。7/31、日銀より発表された7月展望レポートにて物価見通しが上方修正されたことがタカ派と受け止められ、日銀による利上げへの意識が強まり148円台後半まで下落。その後、日銀植田総裁の発言により、利上げ前倒しへの期待感が後退。円売り圧力が再燃し150円近辺まで上昇。8/1、発表された米7月雇用統計が市場予想を下回る軟調な結果となったことを受けて米金利が急落する中、一時147.30迄下落した。最終的には前週比0.20%ドル安円高の147.40でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：29.600-30.100
今週のUSD/TWDはレンジ推移となる予想。軟調な米雇用統計を受け、米金利の急落とともにドルが売られやすい地合いを予想されるが、日本・韓国など台湾の競争国よりも高い米台間相互関税問題に注目が集まる。USD/TWDはレンジ推移と予想。

■ USD/JPY 予想レンジ：144.50-149.50
今週のUSD/JPYは下落を見込む。米7月雇用統計の結果が弱含むと一転して年内2回の利下げを完全に織り込んだ。米国のリセッションへの懸念が再浮上する中、ドル・米株共に売られており、リスクオフはUSD/JPYの重しとなりそう。

今週の予想

| | |
|-----------|---------------------------------------|
| 8/4 (MON) | 米6月製造業受注 |
| 8/5 (TUE) | 日銀金融政策決定会合議事要旨、米6月貿易収支、米7月ISM非製造業景況指数 |
| 8/6 (WED) | 米10年国債入札、台湾7月CPI |
| 8/7 (THU) | 中国7月貿易収支、7月NY連銀インフレ期待 |
| 8/8 (FRI) | 台湾7月貿易収支 |

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。